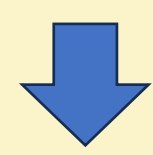


「防災×観光マップ」

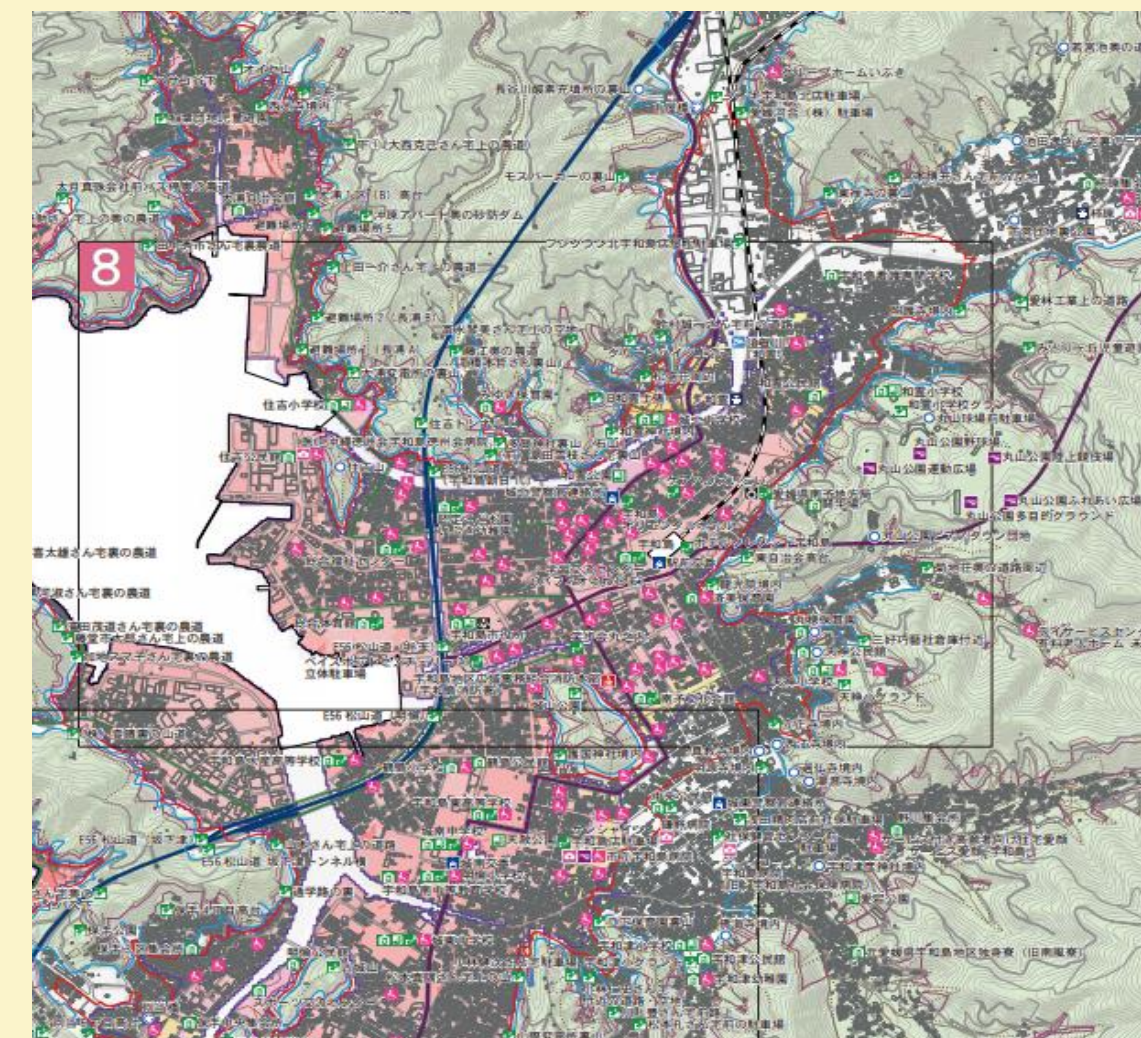
班員：武田晴志郎 岩井佑 松浦大治 渡部雄太 高嶋寿明 二宮夢己
指導教員：檜垣純菜

研究背景

- ・南海トラフ地震の発生
→ 30年以内に60～90%の確率
- ・宇和島市は津波浸水域が広い



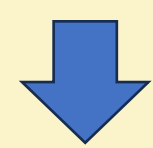
避難しやすいまちづくりが大切！



(図1) 宇和島市津波浸水域

宇和島市の現状

- ・道が複雑、少子高齢化
- ・観光客に対しての避難マニュアルが明確ではない
- ・避難標識が少ない (図2)



自らの判断で避難できる機能を地域に備える必要
→ 避難標識設置の検討
→ ハザードマップの作成



(図2) 宇和島市内の避難標識

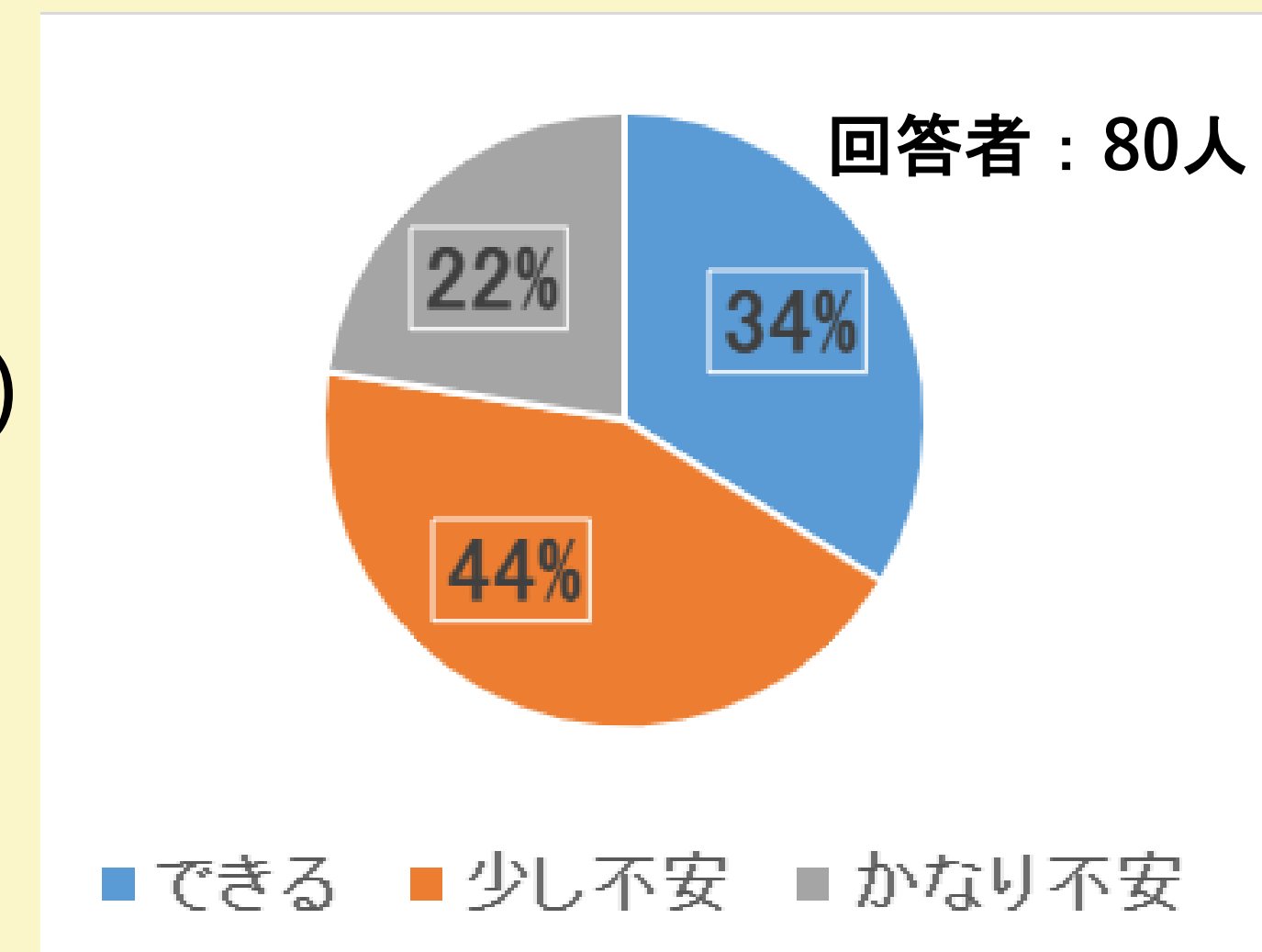
今、分かっていること

携帯電話が使用できない場合
約7割が避難に対して不安



- ・避難時の混雑につながる
- ・情報を得ることができない

(図3)



(図3) 携帯電話等がなくても避難できるか

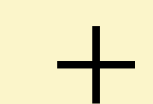
誰でもわかる避難標識を作ることが重要 (図4)

〈工夫〉

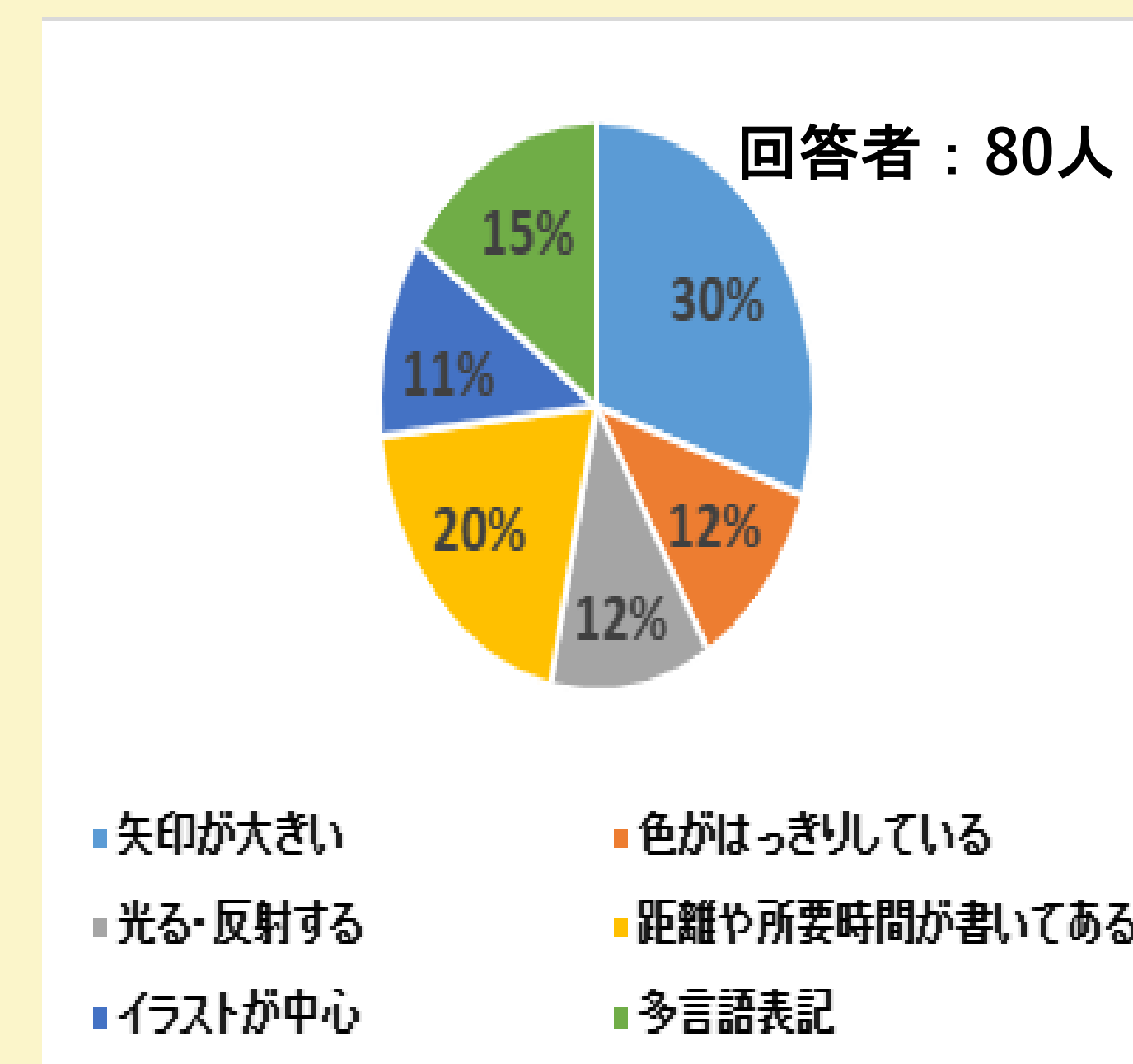
- ・矢印が大きい
- ・距離や所要時間



地域住民も初めて訪れた人も
すぐに避難ができる



ハザードマップに避難指示を
取り入れ、事前に災害対策を行う



(図4) 避難標識に役立つと思う工夫

研究方法

- 1 資料調査…既存のハザードマップと観光マップの比較検討
- 2 現地調査…実際の避難経路の確認・改善点、改善案の発見、検討
- 3 避難シュミレーション…混雑する場所の確認、代替案の検討

今後の活動

- ・既存のハザードマップに観光地や特産品の生産地などを加える。
また、ランドマークや小道を薄く表示する。
- ・避難標識設置場所の検討。
- ・避難シュミレーション。